

▲ 発掘調査の概要

西大寺法寿院の調査（平城第 341 次）

西大寺法寿院の庫裡改築にともなう事前調査を 2002 年 1～2 月に実施しました。調査区は東西 8m、南北 7m で、北側の一部に張り出しを設けました。予想に反して後世の攪乱が少なく、黄白色砂質土の地山が地表下 30cm で現れ、この面で遺構を検出しました。遺構は大きく奈良時代と江戸時代以降に分かれます。奈良時代では、西大寺造営前の平城京右京一条三坊六坪の西北隅部における宅地の掘立柱建物や塀が 3 時期あることを確認しました。柱穴の大きさは一辺が 70cm 前後。江戸時代以降の遺構は井戸と溝などです。



法寿院発掘現場（東から）